

東海防衛だより

2014/12
東海防衛支局



航空自衛隊小牧基地における邦人等輸送訓練

東海3県自衛隊の動き

- ▶ 御嶽山噴火災害派遣・小牧基地UH-60が活動に参加
- ▶ 小牧基地で邦人等輸送訓練
- ▶ 東海各県で災害対策訓練に参加



東海防衛支局の業務

- ▶ 小牧基地補給倉庫新設工事が完成
- ▶ 各務原市「生命の森」整備事業が完了

防衛施設周辺散歩

- ▶ 航空館boon（愛知県西春日井郡豊山町）

東海3県の防衛産業・技術基盤

- ▶ 長年の経験の蓄積と熟練技術により高品質の推進薬を製造（日油株式会社（愛知県知多郡武豊町））



御嶽山噴火災害派遣

小牧基地からもUH60J型機が活動に参加

航空自衛隊救難教育隊

平成二十六年九月二十七日、午前十一時五十二分頃に発生した、岐阜県と長野県の県境付近に位置する御嶽山（標高三千六十七メートル）の噴火による災害は、現時点で死者・行方不明者は六十三人に上り、戦後最悪の火山災害となりました。

この災害に対し、防衛省・自衛隊では噴火当日、長野県知事から陸上自衛隊松本駐屯地の第十三普通科連隊長に対する災害派遣要請を受けて災害派遣を行い、十月十



救難教育隊長室にてお話を伺う。

は、陸上自衛隊の部隊や航空機のほか、東海防衛支局管内にある航空自衛隊小牧基地所在の航空自衛隊救難教育隊所属の航空機や隊員も参加しま

（約九十六キロメートル）先の待機地点へ進み、そこから山へ向かって飛行したもので、十月七日及び十六日の二日間にわたり飛行を行いました。

このような任務に従事した一方、遭難された方の捜索・救難活動にもいつでも対応できるように必要ない待機態勢も並行してとり続けていました。

救難教育隊長の山口直人二等空佐と実際に任務で飛行したパイロットの一人である本宮弘之三等空佐にお話を聞きました。

今回の任務では、部隊としても飛行や整備に当たったので火山灰や有毒ガスへの対処に加え、標高が高い山岳地帯での飛行要領についても今後の活動にも反映できるよ

う認識を共有しただけでなく、派遣される可能性のある火山周辺の飛行に慣熟する必要性を教訓としても感じたとのこと。

「今回の任務飛行は、飛ぶということだけでは難しい飛行というものではなく、他の航空機も多く飛んでいたことや、まさに火山活動中の山の上空を飛行することであったため、例えば、火口付近上空の飛行では山との間に細心の注意を払い、風向きも計算に入れ、適切な危険回避行動をとることができるよう考えながら対応するなど常に事態急変に備えていました。特に二次災害を引き起こすことのないよう、最大限の注意を払いました。」

（本宮三佐）

我々は救難ファミリー

このように、派遣の現場は緊迫



小牧基地で着陸態勢に入るUH60J

六日の撤収要請までの間、陸上及び航空の各自衛隊から人員延べ約七千二百名、車両延べ約千八百両、航空機延べ約三百機が捜索・救難活動に当たりました。この災害派遣に

火山観測支援のため火口付近を飛行

同隊は、発災から三日目の九月二十九日に行動を始め、十月十六日の撤収要請の日まで救難救助機UH60Jヘリコプター一機、整備要員を含めた隊員約四十名が参加しました。

今回、救難教育隊が対応した任務は、気象庁の職員が噴煙や火山ガスの状況等を確認するに当たり山の上空からも観測する必要があること、これに対する支援活動として現に火山活動中であつた御嶽山の上空へ飛行したものです。小牧基地を拠点に、飛行の際には小牧基地から片道約六十マイル



噴煙を上げる御嶽山（10月16日、救難教育隊UH60J機より気象庁撮影。内閣府ホームページ掲載）



山口隊長は、教育だけでなく行動できる部隊として、人を救うために人の痛みがわかる人材を育てたいと語る。



救難教育隊本宮3佐は以前勤務していた百里基地において東日本大震災に遭遇し、当時の捜索・救難活動に加わった経験がある。

「今回の任務も含め、飛行中のコックピットのパイロットとキャビンの隊員との連携を密に取ることも重要な点の一つであって、機内では乗員同士の相対する会話が制限されるので通話装置を介した意思疎通になりますが、それをいかにスムーズに保つことができないかがポイントです。それも常日頃のコミュニケーションあつてのもので、我々は救難一家、ファミリーなんです。」（山口隊長、本宮三佐）



機体整備について本宮3佐と整備隊の隊員との意見交換

火山灰を考慮し、慎重な整備

一方、救難教育隊では現場へ飛行する要員だけでなく、整備もそれに劣らず重要です。

今般の任務でも整備担当のある隊員は、「機材の整備には早朝から取り組みました。飛行後の点検整備も経験のない火山灰が浮遊する中での飛行でもあつたためエンジン整備などことのほか留意しました。このような経験は教訓としてもこれから整備に役立て、今後も厳しい環境下での任務や訓練等において航空機が全力を発揮できるように支援していきます。」と語っています。

常に心の準備をして日々を過ごし、常に基本に基づいた作業を確実に実施するよう心がけていると

「機材の整備一つにしても皆でどうやって大事な機材を最大限効果的に活用していくことができるのかを常々話し合いながら対応してきています。」（山口隊長）

航空機を操り、飛ばす隊員とそれを整備し、支援する隊員の間での相互の信頼関係の確立こそが日々の任務遂行の前提です。

救難教育隊とは

救難教育隊は、航空自衛隊航空救難団（埼玉県入間基地）に所属しています。航空救難団の重要な任務の一つは緊急脱出した自衛隊航空機のパイロットを救助することですが、その中で救難教育隊では救難捜索機U125A（ジェット機）及び救難救助機UH60J（ヘリコプター）等を保有し、「救難活動における最後の砦」として全国十か所に展開する救難隊へ配置されることとなる要員の卵に対する救難操縦や救難任務についての教育・訓練を行っています。

もちろん必要に応じ同隊自ら人命救助等の救難任務にも対処し、各地の救難隊と同様の活動をこなすことができます。今般の災害派遣活動もその例です。山口隊長や本宮三佐をはじめとする隊幹部は、教官としての学生の教育も担当するに相応しい航空救難任務の経験



救難教育隊格納庫で翼を休めるU125A



青空に映える救難教育隊格納庫（施工：名古屋防衛施設支局（当時））

も豊富な、全空自の中でもとりわけ優れた技量の保有者でもありません。この選りすぐりの精鋭の下で鍛え上げられることとなる要員候補者に対する教育・訓練の中でも通称メディックと言われる救難員を育て上げるための課程の内容はこのほか厳しいものです。要員候補者となるための選抜試験だけを見ては強靱な体力と秀でた特技を必要とし、訓練においても単に救難技術を習得するだけではなく、陸上自衛隊でのレンジャー教育課程も加えているなど、厳しい状況下での任務も沈着冷静かつ的確に遂行可能な隊員に育て上げるべく、気力、体力、知力を総合的に鍛え上げていきます。

「他を生かすために」という航空救難団のスローガンがあります。この中に『救う』という要素が含まれるわけですが、『救う』ということとは先ず自己を確立し己の信念を持つことがあってこそなのです。」(山口隊長)



救難教育隊庁舎内に掲げられているモットー

精強な部隊としての誇り

このような救難教育隊では、いっつ下令されるかもわからない任務行動に即座に対応するという緊張感を持ちつつ、極限の状況下での活動を常に意識し、教育・訓練に

において本番を前提に気力、体力、知識、技を日々磨いています。「厳しい訓練に耐える、志高く持った人たちの入隊を大いに期待しています。」(本宮三佐)

救難教育隊としても「存分に訓練を行い、任務に対して迅速かつ的確に対応することができるようになること、またこのことを継続的に維持し、充実させていくことができるのは基地のある地元の皆様のご理解とご協力があつてこそのものであります。

このような中で自分たちの活動が担保されるのであつて、支えてくださる皆様に対して感謝するとともに、地元の皆様にも安心して信頼していただける精強な部隊となれることを誇りに思っています。」(山口隊長)

東海三県のほぼ中央に位置する小牧基地の救難教育隊は、救難員候補者をはじめとする航空自衛隊の航空救難任務を志す隊員に対する教育・訓練を施す全国で唯一の教育部隊であるのみならず、今回のような自然災害への対応も含め、様々な困難な任務も対処する能力を持ったマルチパーパスな部隊なのです。」(北村伸行)



本宮三佐
UH60Jとともに「他を生かすために」
-That Others May Live

東海3県

自衛隊の動き

小牧基地で邦人等輸送訓練

空港までの陸上輸送を初めて演練

十月二日、航空自衛隊小牧基地で、平成二十六年度在外邦人等輸送訓練が実施されました。今回の訓練は、外国における災害、騒乱その他の緊急事態に際して、現地の邦人等を輸送する時の自衛隊の行動を演練し、統合運用能力の維持・向上を図るため、九月二十九日～十月三日に実施された在外邦人等輸送訓練の実動演習の一環として行われたものです。本訓練の統裁官は統合幕僚長で、陸海空自衛隊など約五百五十人が参加しました。(小牧基地からは約九十名参加)

陸上輸送についての訓練では、在外邦人役を乗せた車両をはさみ、その前後を陸上自衛隊の車両(この訓練では、第一輸送航空隊のC130H輸送機で運ばれた軽装甲機動車を使用)が警護する形で行われました。



交通事故時を想定した陸上自衛隊隊員による警戒



セキュリティーチェック等訓練

途中、現地住民の車両の交通事故に巻き込まれるというアクシデントを想定した訓練も行われ、事故現場に隊員が扮する現地の群衆が集まり、遠巻きにする中、搭乗している隊員が車外に機敏に展開し、車両の周囲を警戒する対応を実施しました。

無事に、車両による陸上輸送が完了し、在外邦人の一行は、航空機が待つ空港へ到着しました。



邦人を警護しつつ移動

基地の格納庫（セキュリティーチェック等実施会場）では、航空機搭乗の手続きの訓練が行われました。出国の手続きの説明、セキュリティーチェック等の動作の訓練が一連の流れにそって進みます。それぞれの機能毎に、担当（関係省庁の職員を含む）が効率よく配置され、在外邦人輸送の流れがスムーズに進んでいきました。

各種の手続きが完了し、いよいよ航空機への搭乗ということになります。陸上自衛隊員が、在外邦人の周囲を囲んで警護しつつ、航空機まで移動する形をとりますが、この際、警護の隊員は盾（「STOP」の表示があります）を掲げ、周囲から邦人を守る隊形を保持しています。



KC767に搭乗

周囲を警戒しつつ、救援の航空機であるKC767空中給油機に搭乗します。邦人を数個のグループに分け、この移動を数回繰り返して、航空機への搭乗が完了し、無事、本国へ向けて飛び立っていきました。

小牧基地所在の航空自衛隊第一輸送航空隊から今回の訓練について、話を聞きました。

・在外邦人等輸送遂行においての困難を伴うのは、どのような点ですか？

「少ない情報の中で他国において活動することです。情報が錯綜することもあるので、少ない情報の中からどれが正しい情報

報なのか見極めなくてはなりません。また、不慣れた地域での活動となるので、不測事態が頻繁に生起する可能性があるため、常に事態対処を念頭に活動しなくてはならない点も挙げられます。」

・今回の訓練で感じた点はどのようなことでしたか？

「統合幕僚監部が主管となって初めて実施した訓練でしたが、三自衛隊、関係機関との連携等も含めて総合的な訓練が実施でき、有効な訓練であったと思います。」

「仮に在外邦人等輸送が実施された場合、第一輸送航空隊保有のC130H型機が派遣の対象機種となることも考えられます。このため、平成二十五年は多国間協同訓練（コブラ・ゴールド）にも参加しており、日頃からこのような機会を通じ能力の向上維持に努めています。在外邦人等輸送をはじめ、PKO、国際緊急援助活動等の国外での運航は第一輸送航空隊が担うことが多いのですが、今後安全で確実な運航が実施できるよう常日頃からの訓練を怠りなく実施していきたいと考えています。」

このような訓練を通じて、自衛隊は、外国における災害等の緊急事態に際して現地の邦人等を輸送する任務の遂行に必要な能力、とりわけ統合運用能力の維持・向上を図っています。（木下輝満）

東海各県で災害対策訓練に参加

碧南、名古屋、志摩各市を中心に各地で

秋は日本各地で様々な防災訓練が行われていますが、東海防衛支局管内に所在する自衛隊の各部隊等が参加した主な防災訓練等について紹介します。

●愛知県・碧南市津波・地震防災訓練

八月三十一日、愛知県碧南市港本町の玉津浦グラウンドをメイン会場として、愛知県及び碧南市の共催により防災訓練が行われました。この訓練では、愛知県警察等と共に、現地合同指揮所を設置し、上空から航空自衛隊救難教育隊（小牧）の救難ヘリコプターUH60、地上でも陸上自衛隊第十師団の偵察バイクによる被害情報の収集・伝達訓練を行い、また同師団の大型トラックが参加して救援物資の輸送・受入れ訓練等が行われました。



偵察バイクによる被害情報の収集

●三重県・志摩市総合防災訓練

十一月二日、志摩市総合スポーツ公園のほか大紀町と南伊勢町にある複数の会場において、三重県及び志摩市等の共催により、三重県内の企業・団体等、医療関係機関、地方行政機関、教育関係機関及び地域住民等が参加した防災訓練が行われました。



自衛隊員による倒壊家屋の探索

津波災害による浸水、家屋等の流出被害等を想定した救出・救助活動訓練では、上空から航空自衛隊浜松救難ヘリコプターUH60による捜索訓練を行い、地上では陸上自衛隊第三十三普通科連隊が偵察バイクによる被害状況の確認を行いました。その後、同連隊が志摩市消防団と三重県警察等と連携して倒壊した家屋へ突入し被災者の捜索及び救助、瓦

礫の除去等を行い、本番さながらの緊張感のこもった訓練を実施しました。

陸路の断絶を想定した海上アクセスの物資搬送訓練では、海上自衛隊第四十一掃海隊（横須賀）の掃海艇「ちちじま」（五七〇トン）が浜島港に接岸し、第三十三普通科連隊が救難物資及び医薬品等を陸揚げし、大型トラックにより避難所まで輸送する訓練も行われました。



掃海艇「ちちじま」による物資輸送
(陸上自衛隊第33普通科連隊より提供)

また、隣接する会場では、第三十三普通科連隊と航空自衛隊白山分屯基地及び笠取山分屯基地の部隊が民間団体と共同で野外炊具を用いて炊き込みご飯や豚汁等の炊き出し訓練を行いました。

●中部緊急災害現地対策本部運営訓練

十一月四日及び五日、愛知県自治センターにおいて、内閣府（防災担当）が主催し、南海トラフ地震発生時に被災地に設置される緊急災害現地対策本部の設置・運営を目的とし

た中部緊急災害現地対策本部運営訓練が行われ、防衛省からは運用企画局事態対処課及び東海防衛支局施設企画課が参加しました。

地震が発生したとの想定により、当支局職員は他省庁の出先機関及び東海三県の職員とともに対策本部の設置のためパソコンや通信機材等の搬入及び設定等を行いました。対策本部の設置完了後は参加した省庁が各担当ごとに被害状況、支援要請などの情報を集約し、内閣府の政務官に対する報告を行い、各機関等の連携の確保を図りました。当支局からは自衛隊各部隊の支援活動の状況等について報告しました。



他省庁職員と調整中の東海防衛支局職員

このように東海三県に所在する自衛隊の各部隊等は地方自治体等が主催する防災訓練へ積極的に参加し、日々の訓練の成果を活用して、さらなる練度の向上を図っています。また、地域住民の方々にも自衛隊の能力や災害時における備えなどについて、より理解を深めていただける機会となっています。（林 隆弘）

小牧基地補給倉庫新設工事が完成

(建設計画官、建築課、土木課)

東海防衛支局では、平成二十四年度予算に計上された航空自衛隊小牧基地燃料地区における補給倉庫新設工事を行ってまいりましたが、本年7月末、当該補給倉庫（鉄骨造一部鉄筋コンクリート造、平屋建て、高さ約9m、延床面積約八千㎡）が完成しました。

この工事は、現有の既存補給倉庫を建て替えるものですが、現有の倉庫は昭和二十八年に建設されたもので、老朽化が著しく、雨漏りなどにより保管物品への影響が生じており、本体の維持補修も限界に達していました。このため、新しく補給倉庫を新設することになったのです。

補給倉庫新設に当たり、既存補給倉庫の機能を維持する必要があるため、また、既存補給倉庫周辺を含め、基地内にこれだけの規模の補給倉庫を建設できる空地がないことから、既存補給倉庫前面の滑走路側に建設することとなりました。このため、航空法の高さ制限（転移表面）を受けるとなると、施工ができる高さを確保する観点から、既存倉庫に極めて接近した位置となりました。

本体工事は平成二十五年八月から始まり、鉄骨・屋根工事中は、

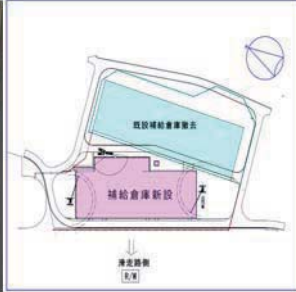
揚重機のブームの高さをセンサー機器により監視するなど慎重に施工を行い、このたび完成を見てものです。

新設補給倉庫は、大型フォークリフトが走行でき、荷台が横開きするトラックに対しても荷さばきが容易に出来る間口10mのオーバースライダーを備えていることから、非常に効率よく作業ができる施設となっています。

完成後の八月一日には、航空自衛隊小牧基地司令をはじめ主要幹部や工事関係者等が参列して落成式が行われ、使用部隊の長である



補給隊長が、小牧基地の南に位置する補給隊を太陽になぞらえ、「南側から明るく照し、業務に邁進する」決意を述べました。また、現場隊員からは「明るくて綺麗」「開放感があつてとても気持ちいい」「動線が使いやすいよくなった」等の声も聞かれました。



配置図



当支局監督官による倉庫内事務室の内装仕上確認

既存補給倉庫解体へ

ところで、従来からあつた既存補給倉庫は、新設倉庫完成に伴い、解体されることになりました。部隊の広報資料によれば、昭和二十二年五月、米軍は旧陸軍の「小牧飛行場」を接収し、昭和二十八年に床面積約一万㎡の鉄骨平家建ての倉庫を建設しました。

貨物駅さながらの引込み線とプラットホームを有し物資の積み卸しを実施していたそうです。これまで米軍時代を含め六十一年間航空自衛隊の活動を支えてきた補給倉庫は老朽化が著しく、新設補給倉庫が完成したことにより、その使命を終えることになりました。（今井元日・吉田雅樹）



既設補給倉庫(昭和28年建設)

各務原市「いのち生命の森」整備事業が完了

空自岐阜基地周辺財産を活用 事業開始から十年、市主催植樹祭を開催

(施設管理課)



植樹祭式典・浅野各務原市長の挨拶

「生命の森」整備事業は、航空自衛隊岐阜飛行場周辺において、航空機の騒音がうるさい地域として指定された区域内で国が買い入れた土地（周辺財産）を利用した緑地整備事業（次頁参照）として行うもので、各務原市において、まちづくりの指針として定める「緑の基本計画」の「空の森地区」として、国有地の活用による新たな緑の拠点形成を図るため行っているものです。

本事業の整備は、平成十七（二〇〇五）年度から始まり、同年度は、周辺財産の国からの使用許可により同市が公園整備「見晴らしの森」（次頁参照）を行い、翌年度からは毎年度、国が公園的植栽として基盤整備を行い周辺財産の使用許可後、市民の憩いの場として利用していただいているもので、事業開始から十年目となる本（平成二十六・二〇一四）年度の「ど

んぐりの森」の整備をもって全事業が完了しました。

毎年度の整備終了後、各務原市の主催で植樹祭が行なわれてきました。これは、前年度に誕生した子供の家族を対象に苗木の記念植樹を行い、緑の成長を見守ると共に、生命の尊さ、緑の大切さを見つめ直していただくため、同市が平成十七年度から実施しているもので、本年度の第十回となる植樹祭も十月十八日、穏やかな秋晴れの下、約七百世帯・三千人の市民が参加され、会場内はマリンバの演奏、ヤギ数頭の参加等で華やきを添えられた中、和やかな雰囲気で行われました。

植樹を終えた子供達は、笑顔で家族と一緒に初々しい記念撮影を行うなど、まさに「生命」の始まりにふさわしい幸福感で会場は包まれていました。

ここに植樹された延べ世帯数は

この十年間で約六千三百世帯となりました。

なお、東海防衛支局としては、本事業を含め、今後とも周辺財産の適切な維持・管理及び活用に努めて参ることとしています。
(鈴木兼仁・永井七奈)



各務原市長
浅野健司

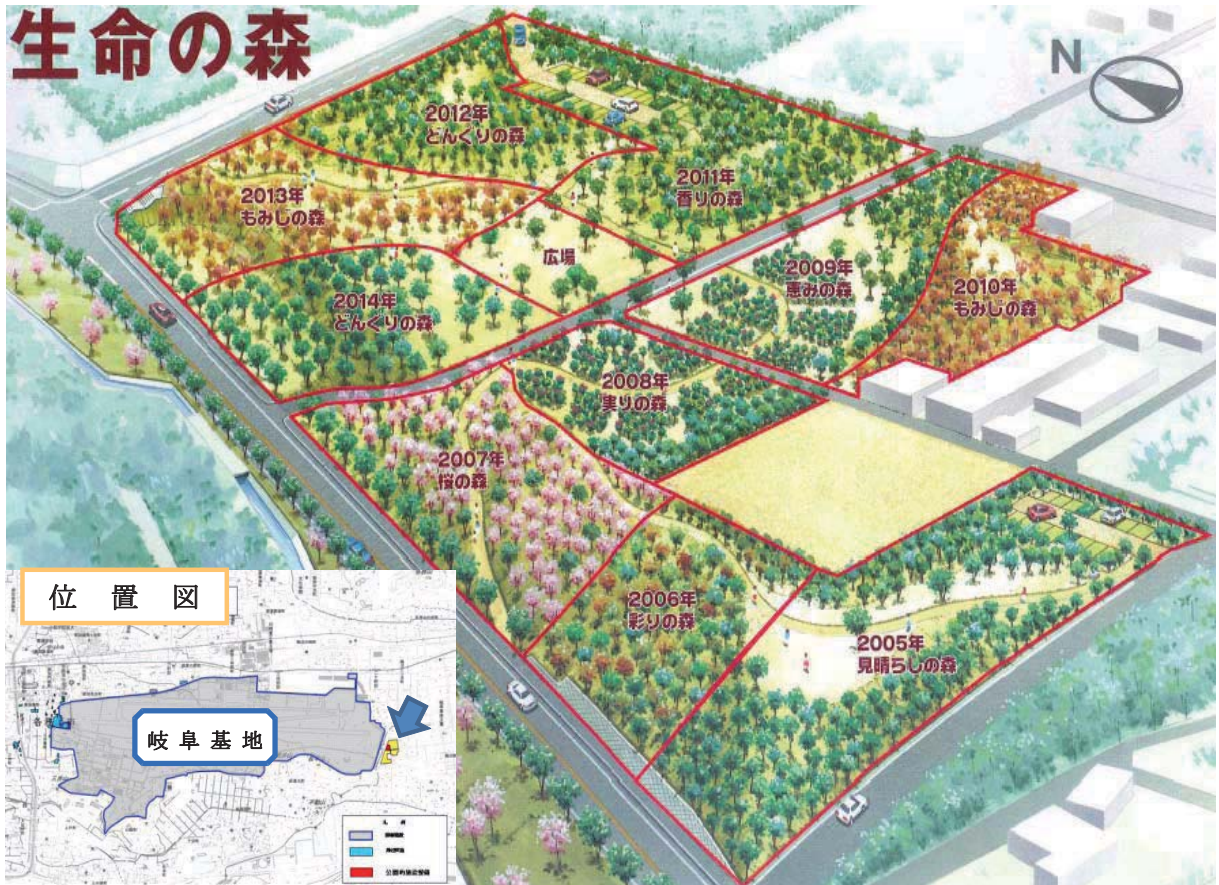


生命の森植樹祭も今年で十年目。防衛省様のご協力をはじめ、関係の取り組みで、無事、事業完了を迎えることができました。この生命の森には、家族で散歩しながら子ども们的成長を喜び合う、そんな穏やかな情景があります。今後も、この森が長く愛されるよう、大切に育ててまいります。



【緑地整備事業とは】

防衛施設周辺の生活環境の整備等に関する法律第六条等に基づき飛行場周辺において国が買入れた周辺財産に対し、緑地帯その他の緩衝地帯として整備をし、地方公共団体に無償で使用してもらうもので、飛行場周辺の住民の方々の負担の軽減や生活環境の改善のために行われるものです。その際、地方防衛局等としては地方公共団体からのご要望を踏まえ、芝生、花木、低木等の植栽を行い、付帯施設として、ベンチ、休息所などの整備を実施しています。



航空自衛隊小牧基地は、愛知県西部に位置し、愛知県名古屋空港に隣接した、第一輸送航空隊、第五術科学校などが所在する重要な防衛施設です。同基地は、小牧市、春日井市、西春日井郡豊山町から成っています。豊山町の主要部分の一部を含む西側の大半が豊山町内に位置しています。

防衛省・自衛隊としては同町や住民の皆様から、平素、基地の安定的な運用の確保へのご理解とご協力を頂いています。東海防衛支局としても同基地の設置・運用に伴うさまざまな影響の緩和等のため各種の施策を行っています。

今回はこの豊山町に所在する「航空館 boon」についてご紹介いたします。



(建物入り口)

「ぐくむ」ことを目的に広く一般に公開されています。平成十七年に開館した建物は二階建てですが、天井は高く、床面積は、約八百八十㎡あり、その中には自衛隊にも関連の深い三菱重工製のMU2型機や川崎重工製の川崎ヒューズ式369型ヘリコプターの実機、航空宇宙産業に関する資料、フライトシミュレーター等が展示されています。

MU2型機は国産航空機として昭和三十八年に初飛行を行い、航空館 boon に展示されている機体は昭和三十八年製の三号機とのことです。MU2型機は、陸上自衛隊でも昭和四十二年から昭和五十九年間の間でLR1型連絡機として導入され、現在でも二機が現役として活躍しています。

また、航空自衛隊でも、救難捜索機及び飛行点検機として活躍していましたが、現在は全機退役してしまいました。また、川崎ヒューズ式369型ヘリコプターは新聞社での取材等に活躍したものとことです。同機は米国製ヘリコプターが川崎重工でライセンス生産されたものです。このヘリコプターも、実は、現在でも陸上自衛隊で使用されているOH6型観

～防衛施設周辺散歩～
航空館 boon
〔 愛知県西春日井郡 豊山町 〕

測ヘリコプターにつながります。OH6型機は新型のOH1型機とともに活躍しており、先の御嶽山の噴火災害に対応した捜索・救難活動にも参加しました。現在でも約八十機が各地で運用されています。

このほか、航空館 boon には航空自衛隊の支援戦闘機F2型機に用いられている実物複合素材の一部や機体構成パーツとして加工された実物のアルミ素材の一部などが展示されています。これらは実際に手に取って見ることもできます。アルミ素材は合金の固まりであり、削り出しであり、精密な加工振りがわかります。航空館 boon では旧名古屋空港航空宇宙館より移設された貴重な展示品を間近に見ることができ、ここでご紹介したものの以外にもボーイング777型旅客機の実物ドアパネル



写真上…LR1型機、下…OH6型ヘリコプター（陸上自衛隊第1ヘリコプター団ホームページより転載）



館内展示：手前はMU2型機、奥は川崎ヒューズ式369型ヘリコプター

等も展示され、航空機の開発から製造までの流れなども平易に解説されています。

東海地区と防衛省・自衛隊の装備品、特に航空装備品との深い関わりを垣間見る一面もある施設です。
(北村伸行)

開館時間／午前九時～午後四時(入場無料)
休館日／月曜日、年末年始
住所／愛知県西春日井郡豊山町大字 青山字神明百二十番地一
電話／056812910036
(航空館 boon 施設案内
<http://www.town.toyoyama.lg.jp/2sisetu/02koukyouboon.html>)

東海3県の 防衛産業・技術基盤

長年の経験の蓄積と
熟練技術により
高品質の推進薬を製造

【日油株式会社】
(愛知県知多郡武豊町)



ひまわり8号をのせたH2Aロケット

緩やかな丘陵地帯が広がる愛知県知多半島。名古屋駅より車で約一時間足らずの場所にあるのが日油株式会社。
同社は明治四十三年に創業し、この知多半島の武豊工場は大正八年（千九百十九年）から火薬の製造を開始しているが、近年は、H2Aロケットの補助ブースター用推進薬も製造しており、我が国の宇宙事業にも深く関わっている。
武豊工場では、含水爆薬等の産業用火薬事業、ロケット用推進薬等の防衛・宇宙開発用火薬事業および自動車用安全部品等の民生品事業を行

っているが、特に、防衛省で使用する代表的な製品としては、空対艦ミサイルや地对空ミサイル用推進薬などがある。
これらの製品の製造工程の特殊性や難しさについて、担当の製造課長は話す。
「ロケット用推進薬の製造において、最も大切な工程の一つが「混合（こんわ）」と呼ばれる原料の混合工程です。この工程において、技術的な要となる事は、原料の配合割合と混合の方法です。」
同課長によれば、原料には、主成分となる「酸化剤」や推力増大のための「助燃剤」が固形材料としてあり、この固形材料を成形用の金属鋳型内に流し込めるよう粘性を調整し、自らも燃料と粘結剤になる「バインダー」が液状材料としてある。これらの配合割合と混合方法は、創業以来蓄積されてきた膨大なデータに基づき決定されるという。
「『助燃剤』には金属の粉を使用します。これを使うと推進薬の燃焼温度が高くなり、それに応じて高い推力が得られます。」
高推力を引き出す「助燃剤」。ただし、ある一定の燃焼温度を超えると、ロケットそのものが損傷することもあるため、この混合比率には設計段階における総合的な検証が求められるとのこと。



「主成分である『酸化剤』は固形材料です。単純に混合すること。」
「『酸化剤』は金属の粉を使用します。これを使うと推進薬の燃焼温度が高くなり、それに応じて高い推力が得られます。」
高推力を引き出す「助燃剤」。ただし、ある一定の燃焼温度を超えると、ロケットそのものが損傷することもあるため、この混合比率には設計段階における総合的な検証が求められるとのこと。

「『酸化剤』は金属の粉を使用します。これを使うと推進薬の燃焼温度が高くなり、それに応じて高い推力が得られます。」
高推力を引き出す「助燃剤」。ただし、ある一定の燃焼温度を超えると、ロケットそのものが損傷することもあるため、この混合比率には設計段階における総合的な検証が求められるとのこと。

「『酸化剤』は金属の粉を使用します。これを使うと推進薬の燃焼温度が高くなり、それに応じて高い推力が得られます。」
高推力を引き出す「助燃剤」。ただし、ある一定の燃焼温度を超えると、ロケットそのものが損傷することもあるため、この混合比率には設計段階における総合的な検証が求められるとのこと。

「『酸化剤』は金属の粉を使用します。これを使うと推進薬の燃焼温度が高くなり、それに応じて高い推力が得られます。」
高推力を引き出す「助燃剤」。ただし、ある一定の燃焼温度を超えると、ロケットそのものが損傷することもあるため、この混合比率には設計段階における総合的な検証が求められるとのこと。

「『酸化剤』は金属の粉を使用します。これを使うと推進薬の燃焼温度が高くなり、それに応じて高い推力が得られます。」
高推力を引き出す「助燃剤」。ただし、ある一定の燃焼温度を超えると、ロケットそのものが損傷することもあるため、この混合比率には設計段階における総合的な検証が求められるとのこと。

「『酸化剤』は金属の粉を使用します。これを使うと推進薬の燃焼温度が高くなり、それに応じて高い推力が得られます。」
高推力を引き出す「助燃剤」。ただし、ある一定の燃焼温度を超えると、ロケットそのものが損傷することもあるため、この混合比率には設計段階における総合的な検証が求められるとのこと。

「『酸化剤』は金属の粉を使用します。これを使うと推進薬の燃焼温度が高くなり、それに応じて高い推力が得られます。」
高推力を引き出す「助燃剤」。ただし、ある一定の燃焼温度を超えると、ロケットそのものが損傷することもあるため、この混合比率には設計段階における総合的な検証が求められるとのこと。

「『酸化剤』は金属の粉を使用します。これを使うと推進薬の燃焼温度が高くなり、それに応じて高い推力が得られます。」
高推力を引き出す「助燃剤」。ただし、ある一定の燃焼温度を超えると、ロケットそのものが損傷することもあるため、この混合比率には設計段階における総合的な検証が求められるとのこと。



大型推進薬のカットモデル
(H2A用)

**平成二十六年版防衛白書
東海各県自治体等への説明を実施**

平成二十六年版防衛白書が八月五日、閣議で了承されました。防衛白書は、我が国の防衛の現状と課題及びその取組についての周知を図り、防衛政策への理解を深めていただくために毎年刊行しているもので、今回が刊行四十回目となります。

今回の防衛白書は、一層厳しさを増す我が国を取り巻く安全保障環境や安全保障法制に係る閣議決定、国家安全保障戦略や新防衛大綱などの防衛政策、国際社会の平和と安定の維持を図るため防衛省・自衛隊が行っている様々な取組などについて、コラムや図表を充実させて作成しています。

東海防衛支局としては、防衛白書の内容について当支局管内の東海三県各県・市長村等に対して説明を行うべきところと見做しています。

なお、防衛白書は、一般書店にて販売されているほか、防衛省ホームページ（<http://www.mod.go.jp>）にも掲載されていますので、是非ご覧下さい。（林隆弘）
（写真・鈴木三重県知事に対する説明）



**東海防衛支局管内優秀工事顕彰状贈呈式
－ 3社を顕彰－**

7月1日、東海防衛支局において平成25年度優秀工事顕彰状贈呈式を執り行い、佐藤支局長（当時）から施工にあたった3社に対し、顕彰状を贈呈しました。この顕彰制度は、当支局が発注する建設工事等に関し、他の模範とするにふさわしいものを優秀工事等として選定し顕彰するもので、入札参加者の受注意欲を高め、品質確保を図ることを目的としています。

今回は、平成25年度に完成した当支局発注工事のうち、当支局における審査を経て、次の3社を選定しました。（村上 泉）

- 株式会社 近藤組
【春日井(23 震災関連)庁舎改修建築工事】
- 岐建 株式会社
【春日井(23 震災関連)倉庫新設等建築工事】
- 山岡電気工事株式会社
【春日井(23 震災関連)倉庫新設電気その他工事】



（前列左から）株式会社近藤組、岐建株式会社、佐藤東海防衛支局長（当時）、山岡電気工事株式会社

**東海防衛支局管内部隊等連絡調整
会議を開催**

九月三十日、名古屋合同庁舎第一号館共用大会議室において、東海防衛支局管内部隊等連絡調整会議を開催しました。

この会議は、関係部隊の基地対策担当者との意見交換及び情報共有等を行い、より有効な基地運用の充実を図ることを目的としたものであり、東海防衛支局管内の各駐屯地・基地及び部隊の担当官、中部方面総監部から施設課長並びに近畿中部防衛局からは防衛補佐官、東海防衛支局からは支局長、次長及び関係課長等が一同に集い行われました。

当日、支局長による挨拶に始まり支局及び関係駐屯地・基地及び部隊の担当官から防衛施設の安定運用に関する説明等が行われ、それに対する参加者による意見交換や質疑応答等がされました。

東海防衛支局としては、今後とも駐屯地・基地等防衛施設の運用の充実と地域の調和を図るため、各部隊との連携と協力に努めたいと考えております。



東海防衛支局長着任挨拶



東海防衛支局長
辻 秀夫
26. 7. 25着任

過日東海防衛支局長に着任いたしました。

豊かな風土とすぐれた地理的条件に恵まれた東海三県は、歴史上も数々の決定的な役割を果たし、今日においても多くの重要な防衛施設や防衛産業・技術基盤を擁し、我が国の安全保障、防衛にとってかけがえのない地域です。

引き続き、地域の皆様のご理解とご協力を頂くよう努めつつ、防衛施設の安定的な運用や防衛装備品の確実な取得などの業務にしっかりと取り組んで参りたいと考えておりますので、よろしくお願ひ申し上げます。

新着任課長



装備課長
(1等空佐)
今 泉 雅 博
26. 8. 1 着任

本誌をご覧になっての「意見等がございましたら東海防衛支局報道官気付 052-952-8212 (info-tokai@kinchu.rdb.mod.go.jp) までお寄せ下さい。